



とねがわ こうもん 利根川のそばに閘門があるのはなぜ

すいりょう ちょうせい こうずい ふせ 水量を調整し、洪水を防ぐ

とねがわ かりゅうぶ とち ちい みず なが
利根川は、下流部では土地のかたむきが小さく、水は、ゆっくりと流れています。いったん、こうずい お かわ みず た なが すいがい お
洪水が起こると、川の水はまわりの田んぼに流れこんで、水害を起こしてしまいます。そこで、とねがわ なが こうもん つく こうずい ちょうせい
利根川に流れこむところに閘門を造り、洪水の調整をしているのです。

こうもん とは、ほうすいる うんが すいりょう ちょうせい
閘門とは、放水路や運河などで、水量を調整するための「せき」のことです。

とねがわ みず ふ こうもん し みず た なが ふせ ぎゃく
利根川の水かさが増えると、閘門を閉めて、水がまわりの田んぼに流れこむのを防ぎ、逆に、まわりの田んぼに水があふれるようになると、閘門を開けて、水を利根川に流すのです。このようにして、こうもん あ し すいりょう ちょうせい こうずい ふせ
閘門は、開け閉めすることで、水量を調整し、洪水を防いでいるのです。

はつでん のうぎょう こうぎょうようすい としりょうすい りりょう とねがわ 発電や、農業・工業用水、都市用水に利用される利根川

とねがわ ぐんまけん さんち なが だ かんとうへいや なが ちばけんちょうし たいへいりょう なが
利根川は、群馬県の山地から流れ出し、関東平野を流れ、千葉県銚子で太平洋に流れこむ川です。とねがわ えど まち なが とうきょうわん かわ えどじだい
利根川は、もともと江戸の町を流れ、東京湾にそそぐ川でした。江戸時代になると、かわ なが か だい きぼ こうじ おこな いま いばらきけんごかまちふきん ひく
川の流れを変えるための、大規模な工事が行われました。今の、茨城県五霞町付近の低い台地をほって、えど なが かわ ちょうし ほう げんざい りゅうろ
江戸に流れていた川を銚子の方へつけかえ、現在のような流路としたのです。

とねがわ とち ちい りゅういき どしゃ あたら
利根川をつけかえたら、土地のかたむきがずっと小さくなり、流域に土砂がたまり、新しい川では、こうずい はげ
洪水が激しくなったのです。いまでも、いばらきけん ちばけんざかい とねがわ かりゅうちい き
茨城県と千葉県境の利根川下流地域は、とち ひく しめ すいごうちたい
土地が低くて、湿っており、ここは水郷地帯とよばれています。

とねがわ えどじだい かんとう とうほくちほう むす じゅうりょう すいる かくち かこう さか
利根川は、江戸時代には、関東・東北地方を結ぶ重要な水路で、各地には、河港が栄えました。いまでも、いんりょうすい せいかつようすい のうぎょうようすい こうぎょうようすい すいりょく はつでん りりょう
飲料水などの生活用水・農業用水・工業用水、水力として発電に利用される、重要な川となっています。（監修・保岡 孝之）

